

福岡県高等学校書道教育研究部会

第70回

県研究会

会場 福岡県立青豊高等学校
日時 令和4年12月7日(水)
13:00～16:40

目次

1、日程	・・・ 1頁
2、はじめに	・・・ 2～3頁
3、学習指導案・ワークシート	・・・ 4～10頁
4、年間指導計画	・・・ 12～13頁
5、令和4年度福岡県高等学校教育課程研究集会 芸術部会(書道) 発表資料	・・・ 14～20頁

1、日程

12:30～13:00 受 付

13:00～13:20 開会行事

(1)開会のことば

(2)会長挨拶

【福岡県高等学校書道教育研究部会 会長 田中 憲育(福岡県立稲築志耕館高等学校長)】

(3)県指導主事挨拶

【福岡県教育庁教育振興部高校教育課 高口 盛幸 指導主事】

(4)会場校挨拶

【福岡県立青豊高等学校 餘戸 光司 副校長】

(5)来賓紹介

(6)日程説明等

13:35～15:25 研究授業

15:35～16:30 研究協議会

(1)授業者自評

【福岡県立青豊高等学校 岡部 桂子 教諭】

(2)質疑応答

(3)県指導主事講評

【福岡県教育庁教育振興部高校教育課 高口 盛幸 指導主事】

16:30～16:40 閉会行事

(1)閉会のことば

(2)アンケート記入

2、はじめに

教師は、子どもたちの成長を日々実感できる職業だ。

高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)第1章 総則 第1款 高等学校教育の基本と教育課程の役割には、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、(中略)生徒に「生きる力」を育むことを目指すものとする。(中略) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動 など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに…」と記載されている。多様な古典を学習し、知識・技能を身につけ書表現し、時には他者と協働し作品を制作し、相互鑑賞・批評する書道の授業は、様々な活動の場面がアクティブラーニングとなり、生徒の表情が豊かだと感じる。

私は新潟大学書道科を卒業した後、書道は個人的に趣味として続けながらも、地元である福岡県に戻り教育関係の一般職に勤務した。平成 24 年度より、芸術書道・国語の講師として教壇に立つチャンスを頂戴し、令和3年度より福岡県の新規採用教員として本校に配属された。自身の子育てと並行し、縁のある生徒たちの成長を目の当たりにできることに大変なやりがいを感じ、ぜひ皆に「生きる力」を身につけることで幸せになって欲しい、と願う。

教員採用試験を受験しようと思った一つのきっかけがある。ある生徒が書道部の引退式で言った言葉だ。「最初は友だちに誘われて何となく書道部に入ったが、左利きで習字教室に通ったことはなく、文字を書くことが苦手で劣等感があった。先生に、思い切って気持ちをぶつけて書こうといわれて衝撃だった。どんどん練習し、自信がついた。性格が明るくなり、友だちも増えた。書道が自分を変えてくれた。」1年次は学校に来ることができないこともあり精神的に不安定な生徒が、引退式で皆を前に、実に堂々と意見を伝えることができた。その成長した姿に心から感動した。書道という生活に根づいた芸術だからこそ、生徒の多面的な成長を促す力が備わっていると再認識することができた。私は、日々の教育活動を通して、この経験を忘れず、生徒自身が自らの考えや表現を他者に伝える力を身につけさせることを大切にしていきたいと考えている。

昨今は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、これまでの「常識」が覆された。長期

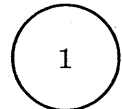
で臨時休校となり、通常行われるはずの文化祭や体育大会等の学校行事の内容が変更され、「あたりまえ」とされてきた景色が変わった。周囲との関りが希薄になり、自分を表現する機会を奪われる子どもたちに、物事に好奇心を持ち、困難に立ち向かい、「生きる力」を身につけさせるにはどうしたらよいか。

私は第一に「考え^{あぐ}倦むより何事もまずは行動することが大切だ」と考え、従来の指導に加え、昨年秋から Chromebook を活用した授業展開を試みた。コロナ禍で出席停止を余儀なくされた生徒にリモートで授業を視聴してもらい、感想を聞き、少しずつ改善を重ねた。「Kahoot!」で書道史の早押しクイズを行い、「AI 読み上げ機能」を利用した授業用キャラクターを作り、「範書動画」を投影し、「Jamboard」を利用して生徒同士で意見交換をさせる…興味・関心を持たせ、端的に内容整理できる方法がないかとアイデアを模索する毎日である。試行錯誤を繰り返す。「これはデジタルよりアナログがいいな」と反省し試しては修正し、検証する。実際生徒の体験を通じて気づくことも大変多く、なるほどそうかと勉強になる。何より私自身が生徒と協働し、課題に挑戦させてもらっている。思い通りにいかないことの方が多いが、今後益々授業の展開を工夫・改善し、私の受け持つ生徒の学びがより一層深まるよう、その一助となれりと奮闘している。

「好奇心はいつだって、新しい道を教えてくれる。」とウォルト・ディズニーの言葉を思い描き、本日の研究授業に挑戦したい。拙い授業で大変恐縮するが、協議会ではご覧いただいた先生方よりご意見を頂戴し、今後の若年研、教員生活にいかす所存である。

本県書道部会県研究授業班の先生方をはじめ、ご指導いただきましたすべての先生方にこの場をお借りして、心よりお礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

福岡県立青豊高等学校 教諭 岡部 桂子



学校番号

芸術科（書道Ⅰ）学習指導案

学 校 名 福岡県立青豊高等学校
指 導 者 教諭 岡部 桂子
実施日時 令和4年12月7日 水曜日 5時限
実施学級 第1学年1・2組28名
実施場所 書道教室

1 単元名 漢字の書（行書）の学習「風信帖」

2 単元設定の理由 ○ 単元（題材）観

本単元は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）芸術編 書道ⅠA表現（2）漢字の書のアに示されているように、知識や技能を得たり生かしたりしながら、（ア）古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫することを踏まえて設定したものである。今回学習する風信帖は日本の書の古典であり、平安時代唐に渡り帰国後、嵯峨天皇、橘逸勢とともに能書（三筆）として活躍した空海が、最澄に宛てた書状（国宝）である。日本の書は漢字の伝来以来、中国の書法の影響を受けて発展しつつ、独自の書法を確立してきた。国語・地理歴史科の学習において諺や逸話などでも知られる弘法大師空海の書は、伝統と文化に関心をもって美を感受するとともに、歴史的な背景を踏まえ取り組むことのできる古典である。

本単元の前に中国の古典である蘭亭序の1文字「清」、祭姪稿の2文字「刺史」の臨書を通し、行書の特徴である点画の連続性や運筆の方法、行書体成立の歴史的背景などに触れた。空海の書の中でも、風信帖は格調高く豊かな表現の美が見られ、王羲之の蘭亭序のように行書の基本に則した字形でありながら、線質は顔真卿の祭姪稿を彷彿とさせる重厚で力強い特徴を併せ持つ。風信帖の書体・書風に則した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し表現させることをねらいとして、本単元を設定した。

○ 生徒観

本クラスは、明るくけじめをもち根気強く制作に取り組む生徒が多い。4月に行ったアンケートの結果、書道に大変興味がある生徒が85%、書写力向上を望む生徒が90%だったことをうけ、毎時基本的に授業開始5分間は硬筆練習帳に取り組むよう指示しており、ほとんどの生徒が休み時間から積極的に教材を開き、互いに声を掛け合い取り組む前向きな姿勢がみられる。毎回の課題にも熱心に取り組み、完成度、提出状況共に良好である。さらに同アンケートから、書写に若干苦手意識をもっている生徒もいたが、芸術（書道）は上手い、下手だけではないと意識づけたことにより徐々にクラス全体が書道に興味・関心を示しており、10月上旬に行ったアンケートでは95%の生徒が書道に大変興味があると回答している。

本クラスでは、1人1台端末（クロームブック。以下CBと表記）を必要時利用している。古典の画像を手本にしたり、範書動画を各自が必要な場面で参考にしたりと授業での端末操作が可能である。また、コロナ禍の影響でペア・グループワークが難しい状況もあるが、ICT機器を効果的に活用し、アプリケーション上でブレインストーミングやKJ法を用いた鑑賞を行うことで、入学時に比べ活発に意見を出し合い、相互鑑賞を主体的にできるようになってきた。一方で、古典臨書の授業においては、指導者が筆遣いなどの技術面を説明することが多く、生徒が主体的に考えながら臨書し、表現の工夫することに課題を感じる。特に行書の運筆について、学習を深めたいと意見する生徒が多い。

○ 指導観

学習指導要領（平成30年告示）芸術編解説 書道ⅠA表現（2）漢字の書イ（イ）に示された「行書については、用筆・運筆との関連を図りながら、点画の連続性の特徴やその表現性が主な学習対象となる。」並びにウ（ア）に示された「臨書活動を通して、各古典の書体や書風を生み出している基本的な用筆・運筆の技能を、表現効果との関わりを踏まえて身に付けることが重要であり、「漢字の書」の多様な美に対する感性を養うことにもつなげられるよう指導することが大切である。」という内容に則し、蘭亭序の「清」を臨書し、点画の連続や楷書と比較して筆順が異なることなど行書の特徴を理解した。さらに風信帖を学習するうえで、王羲之や顔真卿の書との類似点や、作品全体の感興や意図・字形・線質との関わりに関心を持ち、自らの意図に基づいて分析的に鑑賞・構想し、表現や紙面構成を工夫する力を身に付けさせたい。についてはICT機器を用い生徒に次の①～⑦の手法を提示し、従来の指導に加え、より効果的な指導を試みたい。

- ① 「CBで風信帖について調べ学習」…風信帖に関する語句を検索し、関連する画像や地図等を調べる。
- ② 「Jamboardで古典鑑賞」…個人、グループ、全体と段階を踏み風信帖を鑑賞し、意見を共有する。
- ③ 「古典の画像をCBで手本として利用」…拡大・縮小機能で臨書部分の細部を確認する。
- ④ 「Googleアプリケーションの『描画キャンバス』にて籠字・骨書き・筆脈線を色分けし記入」…レイヤーごとに表示・確認し、どのような筆遣いをしたのかを考える。
- ⑤ 「ペアで互いの揮毫動画を撮影・鑑賞」…協働し、揮毫動画を撮影・鑑賞することで、客観的に運筆の速度や抑揚・緩急を認識する。
- ⑥ 「範書動画を鑑賞」…自身の揮毫動画と比較検証し墨の含ませ方、運筆の速度、用筆・運筆、筆脈を確認するなどの気づきを得る。
- ⑦ 「CBで作品を撮影し、ポートフォリオを作成」…作品や感想をデータで保管し、個人・全体で発表・鑑賞を行う。

3 単元の目標

（1）「知識及び技能」

- ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、風信帖の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。
- ・風信帖の基本的な用筆・運筆、線質、字形や構成を生かした表現をするための基礎的な技能を身に付ける。

（2）「思考力、判断力、表現力等」

- ・風信帖の書の良さや美しさを感じ、書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成、意図に基づいた表現について構想し、工夫できる。

（3）「学びに向かう力、人間性等」

- ・意図に基づいた表現をし、風信帖の書の良さや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら幅広い学習活動に主体的に取り組むことができる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 技 古典に基づく基本的な用筆・運筆、古典の線質、字形や構成を生かした表現をするための基礎的な技能を身に付けている。	書の良さや美しさを感じ、古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成、意図に基づいた表現について構想し、工夫している。	態表 意図に基づいた表現をする幅広い学習活動に主体的に取り組もうとしている。 態鑑 書の良さや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら幅広い学習活動に主体的に取り組もうとしている。

5 単元の指導と評価の計画

次	配当時間	○学習内容・学習活動	評価規準			評価方法
			知	思	態	
一	1	○風信帖について認識する ・空海という人物、諺、歴史的背景、風信帖の内容・成立について学ぶ。 ・ICT機器（CB）を活用（空海、高野山、風信帖、最澄、遣唐使などのキーワードを検索し、調べ学習→ワークシート記入→グループワーク） ＜国語・地理歴史科の教科横断的学習＞ ・Jamboardで行書の特徴を復習し、風信帖を鑑賞した印象を発表する。		思	態鑑	ワークシート 様相観察
二	1	○王羲之・顔真卿の書風との比較 ・前時を振り返り、行書の特徴を確認する。 ・個人で風信帖の中から王羲之と顔真卿の影響を受けたと考えられる表現を見つける。 ・グループで類似箇所について根拠を示して指摘し合い、意見を共有する。			態表・鑑	様相観察 作品

		・類似している文字を各自1つ選び、半紙1枚縦に上（王羲之に類似）下（顔真卿に類似）2文字揮毫し、1枚提出する。				
三	1	○個人分析による「妙門」の臨書 ・「妙門」2文字を半紙縦に臨書する。（作品①） ・CBの画像で籠字を取り、骨書き、筆脈線をそれぞれ色分けし、レイヤーを分けて書く。 ・個人で鑑賞・分析し、臨書する。 ・作品②を1枚提出する。	技	思		作品①、② 籠字データ
四	2 （本時）	○揮毫動画撮影、相互発表・鑑賞、作品の完成 ・試書作品を振り返り、自己添削を行う。 ・ペアで揮毫動画を撮影し合い、範書動画と比較検証する。＜墨の含ませ方、運筆の速度、筆脈を確認するなどの気付き＞ ・作品③を1枚制作する。 ・作品③について発表・相互鑑賞する。 ・「妙門」の作品を完成させ、感想シートを記入し、作品に貼付する。	知 技		態 表	作品②、③ 完成作品 付箋
五	1	○鑑賞、単元の学習のまとめ ・CBでポートフォリオを作成する。 ・全体鑑賞と発表会を行う。 ・単元の学習のまとめとして復習テストを行う。 ・最終自己評価をCBで送信する。		思	態 鑑	復習テスト 感想シート 様相観察

7 本時（第四次）

（1）本時の指導目標

- ・風信帖「妙門」の臨書において、筆脈を通して複数の文字を書くという行書の用筆・運筆を学ぶ。
＜知識・技能＞
- ・ICT機器を活用し、自身の揮毫動画と範書動画を比較検証し、墨の含ませ方、運筆の速度、筆脈を実感し、表現に活かす。
＜主体的に学習に取り組む態度＞

（2）本時の手立て

- ・作品②の自己添削・作品③の相互鑑賞を通し（アクティブラーニング）、行書の用筆・運筆を主体的に身に付けさせる。
- ・生徒自身の揮毫動画を撮影させ、範書動画と比較検証させることで、用筆・運筆、筆脈に気付かせ、表現させる。

（3）教材

教師：教科書（書道Ⅰ教育出版）、ワークシート、CB、スクリーン、プロジェクタ、書道道具
生徒：教科書（書道Ⅰ教育出版）、作品ファイル、ワークシート、CB、青・赤鉛筆、書道道具、付箋

（4）学習の展開

	○学習内容 ・学習活動	時間 配当	学習 形態	指導上の留意点	評価規準 （評価方法）
導入	○準備・作品②の自己添削・本時の確認 ・CB、書道道具一式を準備する。	5	個人	・CBにログイン後、古典の画像を描画キャンバスで表示させる。 ・作品②とワークシートを返却する。	
	・作品②を振り返り、自己添削を行う。	5	個人	・作品②に直接赤鉛筆で骨書きと筆脈線、字形・配字・太細などについて修正箇所を記入	知用具・用材 の特徴と表現

	・本時の学習内容を確認する。	3	一斉	させる。 ・周囲と作品を見比べさせる。 ・プロジェクタに注目させる。	効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 （作品②）
ペアで揮毫動画を撮影し合い、範書動画と見比べ、作品を完成させよう。					
展開①	○揮毫動画撮影・範書動画と比較検証 ・自己添削を元に練習する。	10	個人	・撮影前に自己添削を元に練習させる。	
	・揮毫動画を1人3分以内で撮影し合う。	6	ペア	・揮毫開始時間をしっかりと決め、守らせるため、揮毫開始のタイミングを指導者が揃える。運筆の様子を確認することが目的なので、撮影は一度限りと周知する。 ・撮影者は揮毫者のCBで揮毫者の左後ろから起立して撮影し、撮影者のCB古典画像を手本として使用させる。	
	・範書動画を確認する。 ＜墨の含ませ方、運筆の速度、筆脈など＞青鉛筆で作品②に気付いたことを記入する。	5	一斉	・プロジェクタで範書動画を投影する。その後パーツごと3回に分けて投影し確認させる。プロジェクタの動画はループ再生する。 ・墨の含ませ方、運筆の速度、筆脈などに特に注意するよう声掛けをする。	
	・2台のCBを同時に使用し、範書動画と揮毫動画を見比べ気付いたことを話し合い、作品②に記入する。気付きを元に練習する。	14	ペア 個人	・墨の含ませ方、運筆の速度、筆脈などについて話し合っているか注意・声掛けを行う。	知用具・用材 の特徴と表現 効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 （作品②）
	・次の時間の流れを把握する。	2	一斉	・作業の手を止め、けじめを付けて指示を聞いているか確認する。	
休憩 ～10分～（休憩中に付箋、感想シート、完成用半紙を必要枚数配付）					
展開②	○作品③制作、相互発表・鑑賞、作品の完成 ・展開①の気付きを元に、作品③を1枚制作する。	10	個人	・表面左下に「③フルネーム」を書かせる。 ・自身の揮毫動画や範書動画は随時確認してよいと声掛けする。	
	・作品③を発表し合い、相互鑑賞する。良い点と改善点を付箋にメモし、発	10	班	・付箋は文字が隠れないように作品③に貼り付けさせる。	態表意図に基づいた表現をする幅広い学

	表者に渡す。				習活動に主体的に取り組もうとしている。(付箋)
	・作品を完成させる。感想シートを記入し、完成作品左下に貼付する。	20	個人	・完成用半紙3枚に揮毫させる。 ・落款を入れ、押印させる。	技 古典に基づく基本的な用筆・運筆、古典の線質、字形や構成を生かした表現をするための基礎的な技能を身に付けている。(作品③、完成作品)
まとめ	○作品②、③、完成作品の提出、片付け、次回の予告を聞く	10	個人	・丁寧に書道道具を片付けさせる。 ・CB をログアウトし、保管庫へ返却させる。	

(5) 板書等計画

プレゼンテーション

行書の学習「風信帖」の臨書

(6) 本時のルーブリック評価

評価規準	A	B	C
知 用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。	作品②に赤・青鉛筆で、気付きをそれぞれ3つ以上書き込んでいる。	作品②に赤・青鉛筆で、気付きをどちらか3つ以上書き込んでいる。	作品②に赤・青鉛筆で、気付きをどちらも2つ以下書き込んでいる。
技 古典に基づく基本的な用筆・運筆、古典の線質、字形や構成を生かした表現をするための基礎的な技能を身に付けている。	完成作品において、書を構成する要素が4つすべて達成できている。	完成作品において、書を構成する要素が3つ達成できている。	完成作品において、書を構成する要素が1～2つ達成できている。
態 表意図に基づいた表現をする幅広い学習活動に主体的に取り組もうとしている。	中間相互発表・鑑賞において他者の作品から感じ取ったことについて、良い点と改善点について根拠をもってどちらも1つずつ書き込んでいる。	中間相互発表・鑑賞において他者の作品から感じ取ったことについて、良い点と改善点について根拠をもってどちらか1つ書き込んでいる。	中間相互発表・鑑賞において他者の作品から感じ取ったことについて、良い点と改善点について根拠をもって書き込んでいない。

行書の学習③風信帖 ワークシート(全6時間)

年 組() 氏名()

1：これまでの行書の学習を振り返ろう

学習した文字	古 典 名	人 物 名	特 徴
① 清			
② 刺史			
③ 妙門			

<行書の特徴>

れ

点画が()する

き

点画が()的である

し

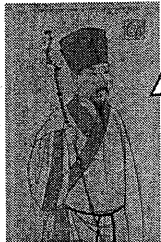
点画が()される

か

点画の()が変わる

へ

点画の形・長さ・方向が()する



真如立()書は立つがごとく
 行如歩()書は行く(歩く)がごとく
 草如走()書は走るがごとく
 ←←宋代()の言葉

教科書 P35 参照

2：空海と聞いて思いつくことは？

教科()で習った 職業() ← () 宗

空海以外の名前() () 時代

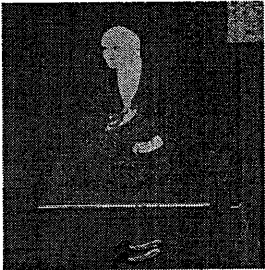
↳

諺()筆を選ばず、()も筆の誤り

その他() ()

(^) ヒント：同時代で有名な法師は？ 中国に行った使節団は？

↑ Jamboard に1人1つずつ書き込んでいこう！CB へ⇒⇒⇒



3：王羲之と顔真卿の書を比較しよう

- ・Jamboard に1人1つずつ、教科書折込の蘭亭序と祭姪稿を比較した印象を書き込んでいこう！CB へ⇒⇒⇒
- ・文字カードを班で話し合い、根拠を示しながら分けてみよう。
- ・王羲之と顔真卿の書から1文字ずつ選び、半紙に2文字臨書しよう。

4：風信帖「妙門」を臨書しよう

- ・作品①臨書 半紙3枚だけ、手本だけを参考に臨書しよう。
1枚 ① + 氏名を鉛筆で左下を書いて提出しよう。
- ・CB 描画キャンバスで
骨書き(赤・ペン・サイズ60で実線)
筆脈線(赤・ペン・サイズ60で点線)
籠字(青・ペン・サイズ60で実線)を書こう。
※レイヤーを分けよう。他のレイヤーを消して確認してみよう。

<チェック項目>書を構成する要素

① 筆順

② 用筆・運筆(起筆の形や角度など)

③ 字形

④ 配置(中心の取り方、文字の大小、余白など)

9

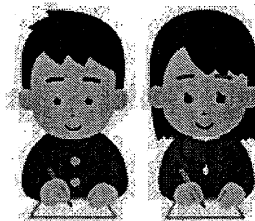
- ・作品②臨書 籠字と上記チェック項目を参考に「妙門」を半紙縦に臨書しよう。1枚、② + 氏名を鉛筆で左下を書いて提出しよう。★ポイント 墨を付けるのは最初だけ。2文字一気に書こう。

作品③臨書

- ・CBを参考に、作品②に赤鉛筆で骨書き・筆脈線を記入しよう。＜チェック項目＞①～④について、各自で修正箇所を赤鉛筆で記入しよう。ペアで作品を見比べてみよう。（5分）
- ・ペアで揮毫動画を撮影しよう。（3分ずつ）

★ポイント 撮影は1回だけ！間違えても撮り続けよう。揮毫者の左上から立って撮影しよう。

- ・範書動画と揮毫動画を比較検証しよう。
墨の付け方、運筆の速度、用筆、筆脈など、ペアで気付いたことを話し合い、青鉛筆で作品②に記入しよう。
- ・古典手本、範書動画、比較検証の内容を踏まえ、臨書しよう。
1枚 ③ + 氏名を鉛筆で左下を書いて保管しよう。



中間相互発表・鑑賞

- ・作品③を発表し合い、相互鑑賞しよう。
「私は**作品①②③の臨書を通して〇〇な作品を目指しました。成長したことは〇〇です。改善したいところは〇〇です。**」
- ・発表した作品の①良いところ②改善点③氏名を付箋に記入し、発表者にプレゼントしよう。
- ・もらった付箋を作品③に文字が隠れないように貼り付けよう。

作品の完成

- ・完成用半紙3枚に心を込めて臨書しよう。1枚に小筆で落款を入れ、押印しよう。
- ・鉛筆で感想シートに記入し、完成作品左下に貼付しよう。

5：鑑賞、単元の学習のまとめ

- ・CBでポートフォリオを作成しよう。
カメラ機能で画面全体にアップして撮影→共有ドライブ→R4 1年1・2組→風信帖「妙門」
- ・全体鑑賞と発表会をしよう。
鑑賞ボードに貼り付け→気付いたことをメモしよう。

- ・単元の学習のまとめとして復習テストを受けよう。
- ・最終自己評価をCBで送信しよう。

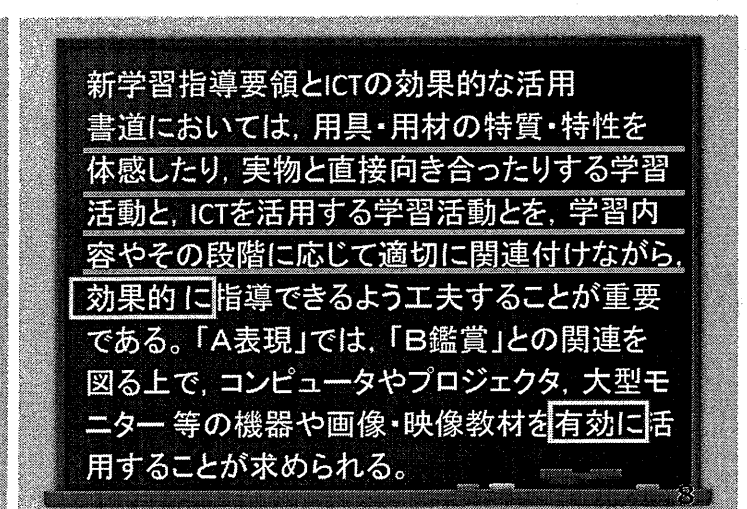
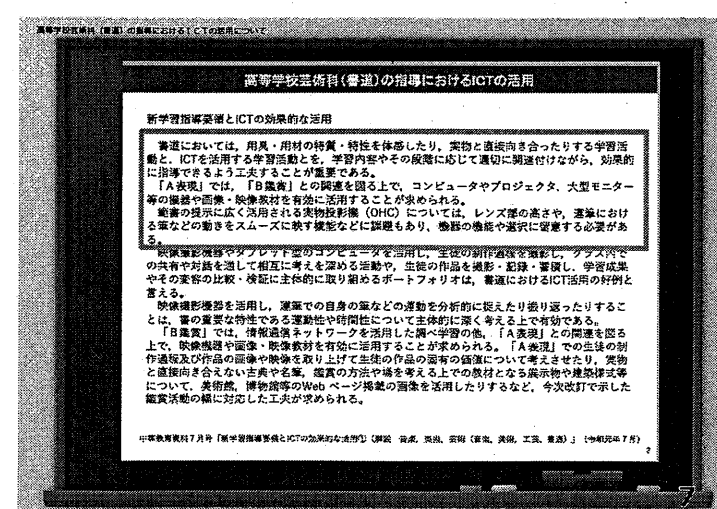
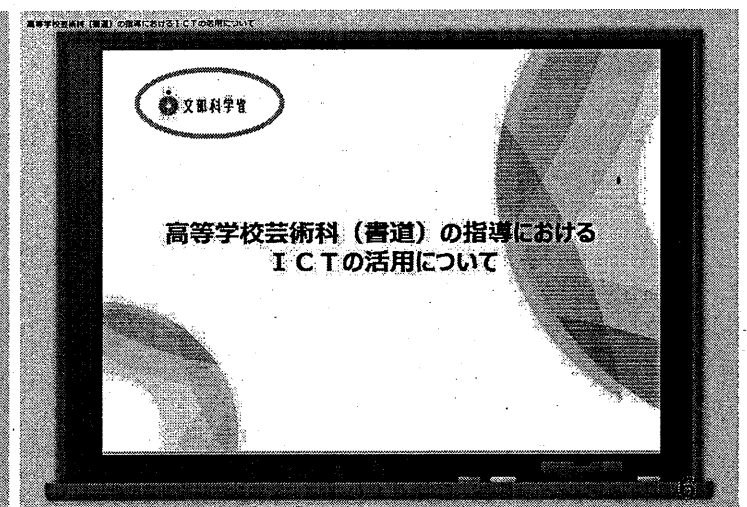
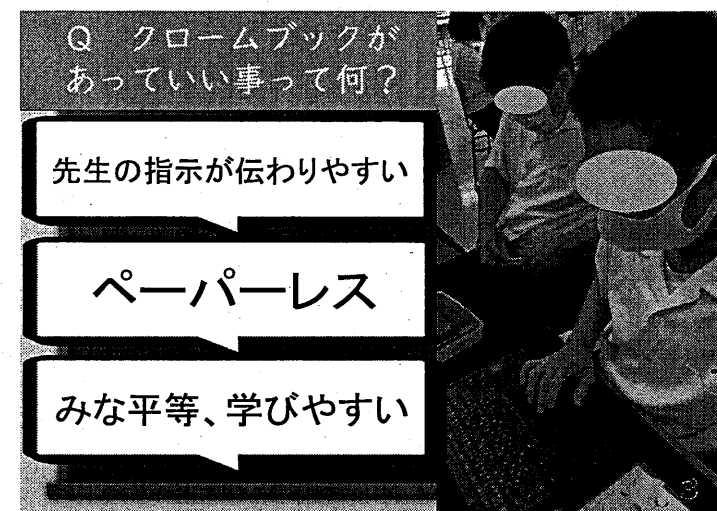
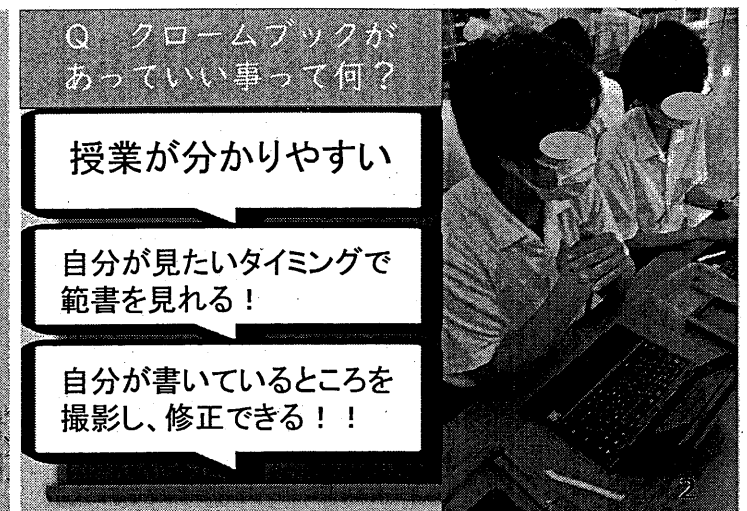
Memo

職・氏名	教諭・岡部 桂子	教科書 (出版社)	書道Ⅰ (教育出版)	教科主任	教務主任	教頭	副校長	校長
教科	芸術	書道Ⅰ	単位数 2	年組 1年1, 2, 3, 4, 5, 6, 7組				
到達目標	【知識・技能】の習得 《何を理解しているか、何ができるか》 書道の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	【思考力・判断力・表現力等】の育成 《理解していること・できることをどのように使うのか》 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美感を味わい捉えたりすることができるようにする。	【主体的に学習に取り組む態度の育成】 《どのように社会とかかわり、よりよい人生を送るか》 主体的に書の幅広い活動に取り組む、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。					
年間指導目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 主体的・対話的で深い学びに向けた取組	活動重視型	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度	評価点		
	生徒が身近な手書き文字や名筆への関心をもち、作品や書に興味・関心を抱き、生涯にわたって、主体的に文字や書と豊かに関わることでできる資質・能力を育成する。	第一考査	0	0	0	0		
		第二考査	30	30	40	100		
		第三考査	30	30	40	100		
		第四考査	30	30	40	100		
		第五考査	30	30	40	100		
道徳教育の観点		三観点合計	120	120	160	400		
	感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書作品について鑑賞したり議論したりする活動を通して、多面的に考え、他者を尊重する心を育成する。	三観点の割合	30%	30%	40%			

学期	月	単元及び指導内容	観点	評価項目
	4	・授業オリエンテーション ・書写と書道の違い ・文房四宝について ・書体の変遷	知技 思判表 態度	文房四宝に興味を持ち、用具・用材に関する知識や扱い方を理解している。 書写と書道の違いを理解し、用具を工夫し書表現しようとしている。 主体的に書体の変遷に興味を持ち、書体の違いを理解しようとしている。
	5	・漢字仮名交じりの書の学習 ・漢字の書(篆書)の学習(泰山刻石) ・篆刻の学習(撰字、印稿制作)	知技 思判表 思判表 態度	用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現について理解する。 漢字仮名交じりの書と篆書について理解し、文字の象形性に興味を持っている。 自分の名前を字書で調べて、印面の中で構成や表現を工夫して制作している。 相互鑑賞を行い、主体的に作品を改良しようとしている。

[illegible]

5、令和4年度福岡県高等学校教育課程 研究集会・芸術部会(書道) 発表資料



本校の生徒の
実態にあった
活用方法って
なんだろう...

本校生徒の実態

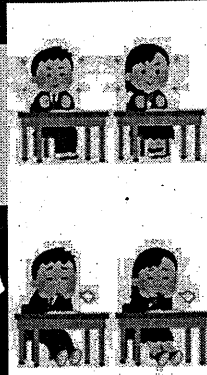
生徒の特徴

- ・真面目で発問に対し正確な返答あり
- ・作品制作に黙々と取り組み、上手になりたい意欲あり
- ・多くの生徒は書道1のみの学習

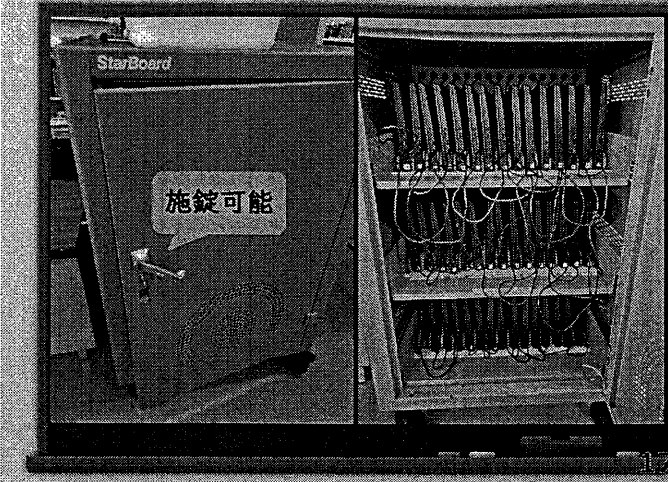
課題

自主的な発表や
発言が少ない

積極的に
発言できない



2 クロームブックの管理・運用



2 クロームブックの管理・運用



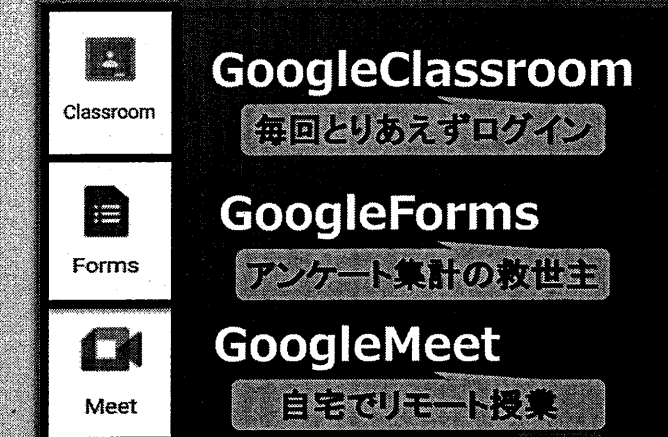
ICTを活用して、
問題を改善
できないかな？

高等学校芸術科(書道)の指導におけるICTの活用例



3 Google アプリケーション の活用①

3 Googleアプリケーションの活用①



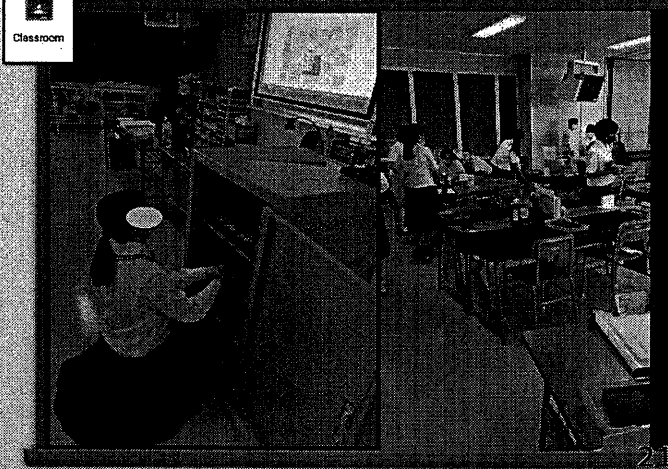
やその変容の比較・検証に主体的に取り組めるポートフォリオは、書道におけるICT活用の好例と言える。
映像撮影機器を活用し、筆での自身の筆などの運動を分析的に捉えたり振り返ったりすることは、書の重要な特性である運動性や時間性について主体的に深く考える上で有効である。
「B鑑賞」では、情報通信ネットワークを活用した調べ学習の他、「A表現」との関連を図る上で、映像機器や画像・映像教材を有効に活用することが求められる。「A表現」での生徒の制作過程及び作品の画像や映像を取り上げて生徒の作品の固有の価値について考えさせたり、実物と直接向き合えない古典や名筆、鑑賞の方法や場を考慮する上での教材となる展示物や建築模型等について、美術館・博物館等のWebページ掲載の画像を活用したりするなど、今次改訂で示した鑑賞活動の幅に対応した工夫が求められる。

中等教育課程7月号「新学習指導要領とICTの効果的な活用」(解説 吉澤、美術、音楽(音楽、美術、工芸、書道)) (令和元年7月)

生徒たちの日常に溶け込むような指導



3 Googleアプリケーションの活用①

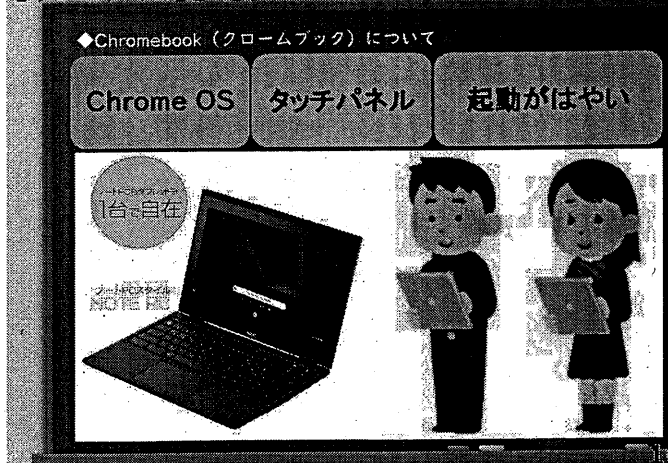


3 Googleアプリケーションの活用①

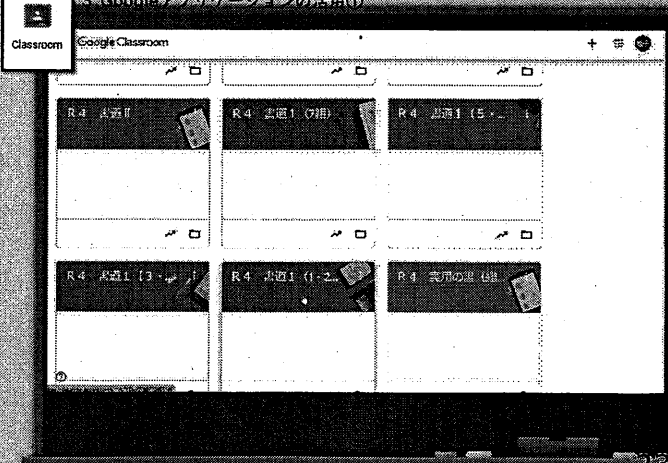


2 クロームブック の管理・運用

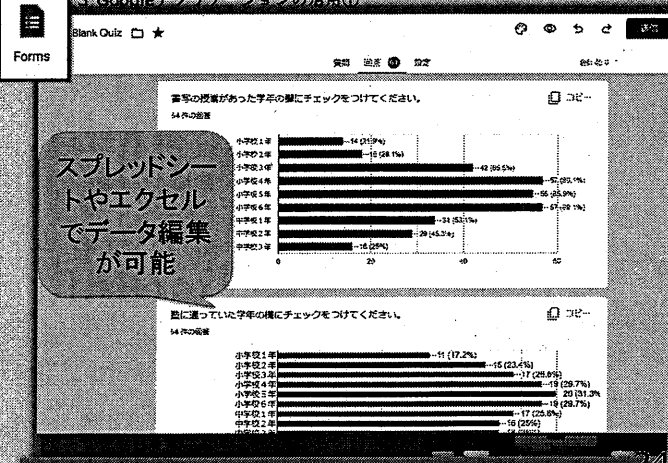
2 クロームブックの管理・運用

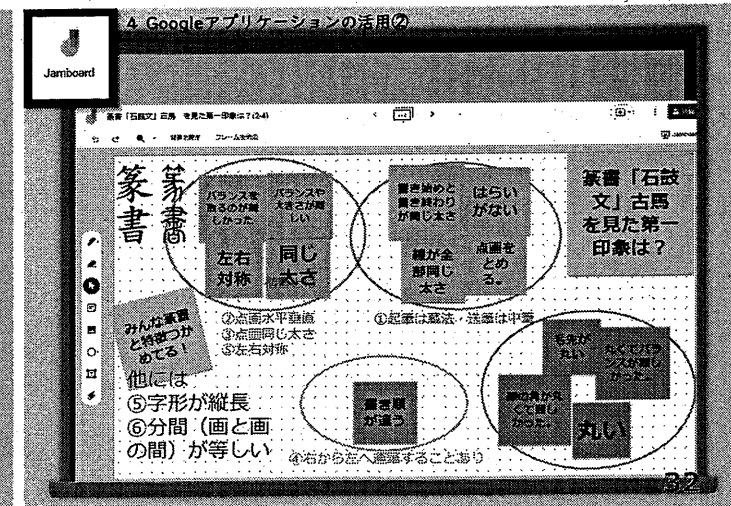
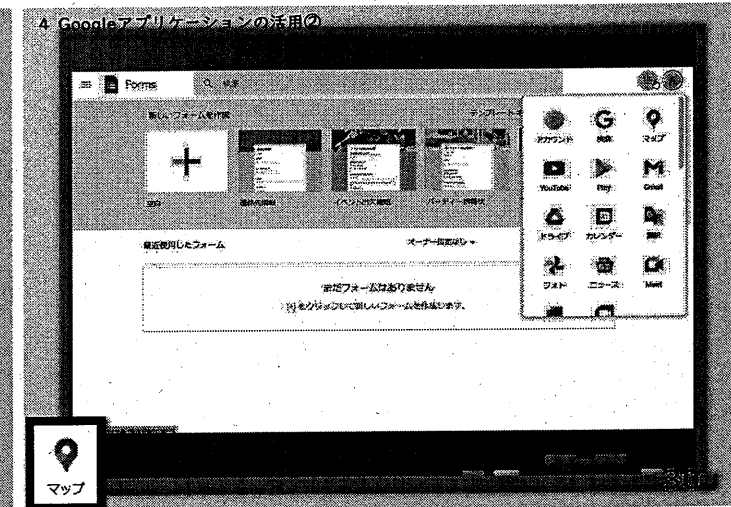
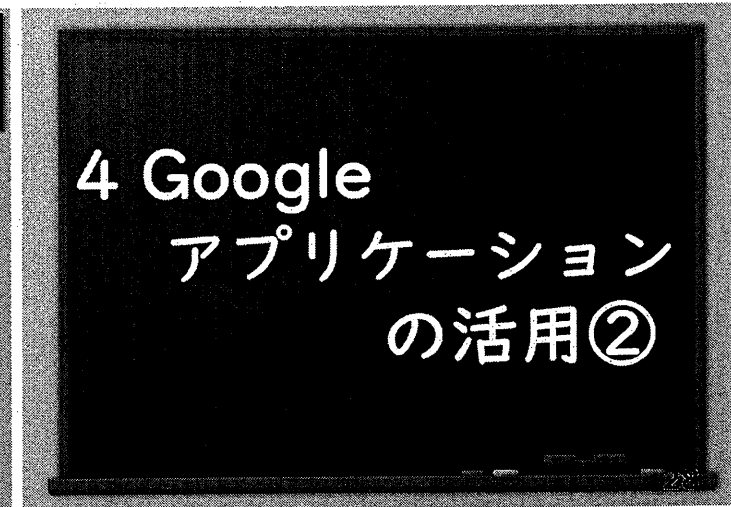
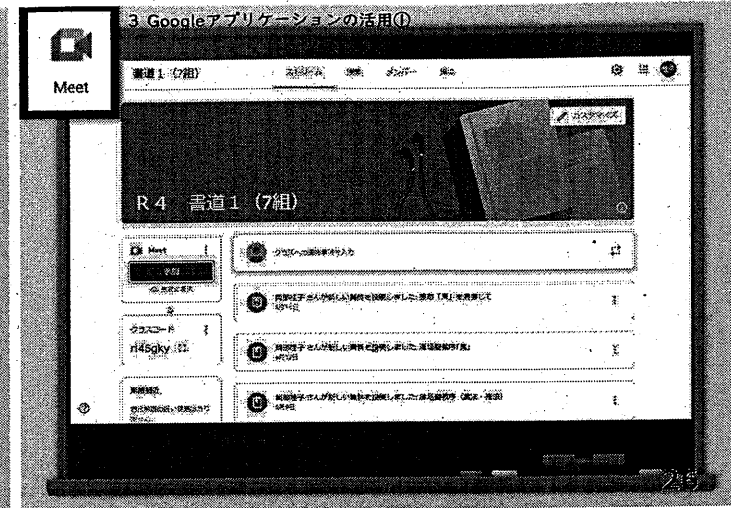


3 Googleアプリケーションの活用①



3 Googleアプリケーションの活用①





5 その他アプリケーションの活用 カメラ

批評会以外の時間でも相互批評

教員に質問やアドバイスを求める

相互批評後に増加

作品の質にこだわる

積極的に意見を述べる

5 その他アプリケーションの活用 AI読み上げ機能

Wordでもできる

小筆ちゃん

6 生徒の感想

～クロームブックが
あって嬉しい事と
今後の課題～

嬉しい事

- ・ 範書をスロー再生で何度も見ることができる
- ・ ただお手本を写す、ということではなく、特徴を表現するための工夫をもっとしたいと思うようになった
- ・ バーチャル鑑賞会がしたい
- ・ 授業を欠席した時、中継やクラスルームで授業内容が把握できる。
- ・ タイピングが得意になった
- ・ 自分の作品を画像に残すのだと思うと、不思議とやる気が湧いてくる。
- ・ 調べ学習が楽しい

今後の課題

- ・ ログインをもっと素早く行いたい
- ・ 片付けるとき、混雑する
- ・ タイピング能力の向上
- ・ 墨を端末に付けないよう注意が必要
- ・ Wi-Fiが不安定 など

7 おわりに

書を愛好する心情を育み、生涯芸術として書道に興味を抱きかけになる指導

生徒のICTを活用した相互批評などを通し、鑑賞力と表現力の向上がさらに図られるのでは？

鑑賞力 表現力

個人的な課題

- 既存の指導に効果的にICTを組み込んでいく思考
- 各種能力の向上
(教材研究、データのシェア、発想、端末管理)
- 指導する生徒の状況にあったICTの利用に関する注意喚起
- ICT支援員さんとの連携

表紙題字揮毫；研究授業担当者 岡部桂子(福岡県立青豊高等学校教諭)